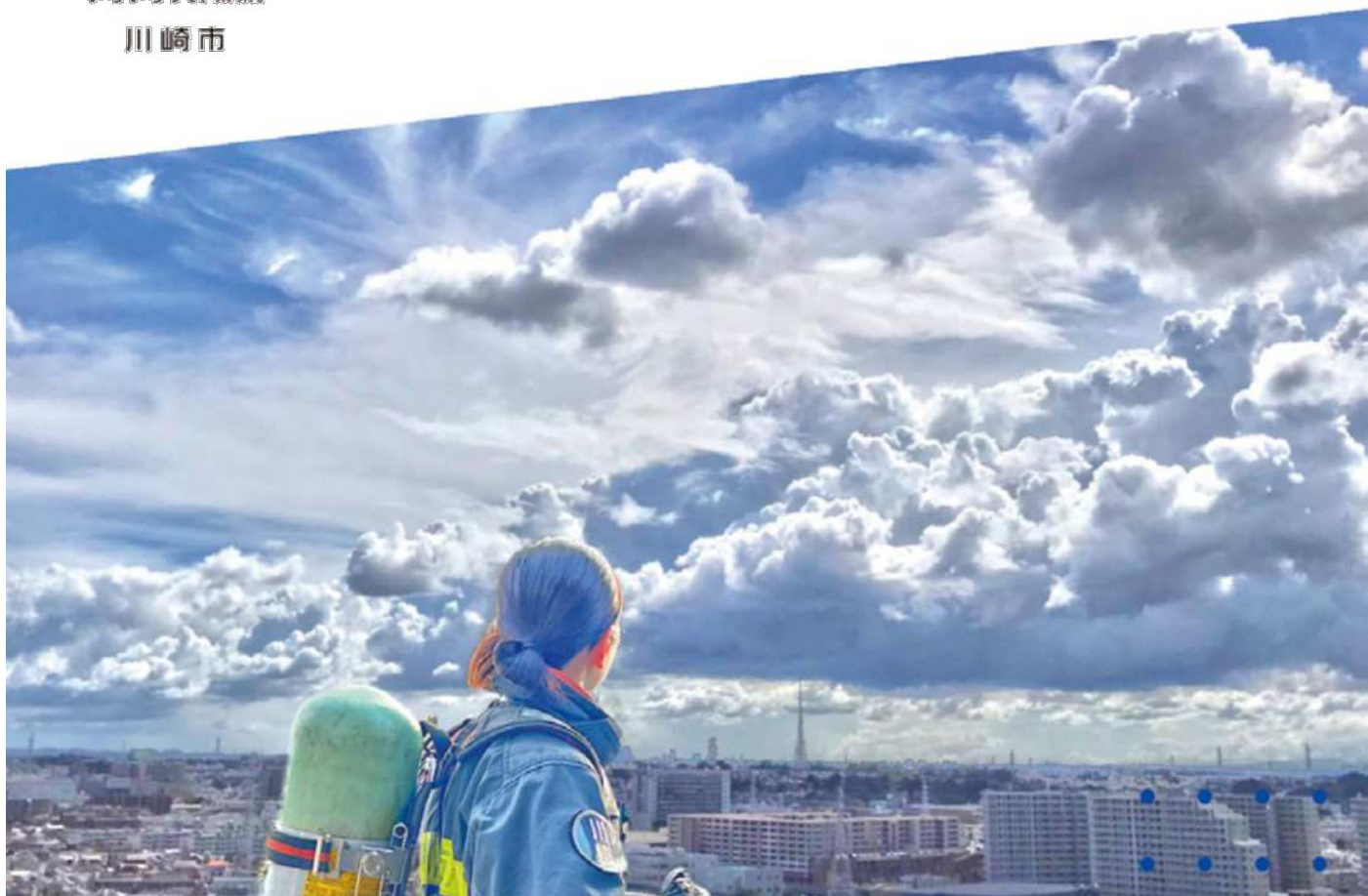




Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



CITY OF KAWASAKI FIRE DEPARTMENT

かわさきの 消防

Since the Kawasaki City Fire Department was established as a municipal fire department in 1948, we are on the mission to protect life and property of Kawasaki citizens from the effects of fires and hazards day and night.

安心して暮らせる 「最幸のまち」をめざして

川崎市消防局では、155万人を超える市民の皆様が安心して暮らせる街づくりの構築に向け、約1,400人の職員が一丸となって、消防・救急体制の強化に取り組んでいます。市民の皆様や企業の方々と力を合わせながら、誰からも信頼され、かつ親しみのある組織づくりに全力を尽くしてまいります。

目次

1	最幸のまちをめざして	1P
2	組織・消防団	3P
3	職員	
	人材育成（職員教育）	5P
	ワークライフバランス	6P
	誰もが働きやすい職場へ	7P
4	設備	
	消防車両	9P
	施設・設備	11P
5	消防の仕事	
	警防業務	13P
	予防業務	15P

川崎市消防局の組織

川崎市消防局は、3部9課1隊1担当22係と市内に8消防署28消防出張所があり、7つの区で様々な特色を持つ川崎市の災害に備え、万全の体制を整えています。

消防局：3部9課1隊1担当22係
消防署：8消防署28消防出張所
消防職員：約1,400人



消防局

総務部	庶務課	庶務係 経理係 消防団・防災支援係
	人事課	人事係 職員厚生係 初任教育訓練所
	施設整備課	施設担当 装備担当
	企画担当	
警防部	警防課	警防係 計画係 消防係 救助係
	救急課	救急管理係 救急指導係
	指令課	情報係 指令第1係 指令第2係
	航空隊	航空係 航空救助係 整備係
予防部	予防課	予防係 設備係 調査係
	査察課	査察計画係 査察係
	保安課	危険物担当 検査担当 火薬類・液化石油ガス担当 高圧ガス担当

消防署

消防署	予防課	庶務係 消防団・防災支援係 予防係 危険物係（臨港消防署のみ） 危険物・査察係（臨港消防署以外）
	日勤救急担当	中原消防署、高津消防署に属する
	警防第1・2課	警防係 調査係 救急係
	出張所	

川崎市消防団

地域住民で組織している「消防団」には、8団28分団から構成される約1,100人の団員が、自身の仕事の傍ら、災害対応、火災予防啓発活動等、地域の安心・安全のために活躍しています。



消防団員は、日頃は自らの仕事を持つ自営業の方や会社員、また、主婦や学生などの皆さんです。火災や風水害、そして地震などの大規模災害から大好きなまち、大切な人を守るため、今日も地域防災力の要として活動しています。
◀ 火災現場における活動の様子

臨港消防団 第1分団 宮越さん



薬学部で学生として勉強に励んでいる宮越さん。
趣味は空手で、経験や人とのつながりを求めて消防団へ入団した



消防団活動を通じて、地域のために活動することはとてもやりがいのあるものだと感じました。特に地域の方々からお礼をいただいた時には頑張った良かったという気持ちになり成長を感じられる瞬間でもあります。消防団活動は勉強との両立も無理なく出来るため楽しく参加でき、仲間との絆も深まりとても良い経験をさせていただいております。

麻生消防団 本団 矢野さん



仕事の傍ら消防団活動に励む矢野さん。（写真右：ゼッケン2が矢野さん）
明るい笑顔でみんなをひっぱる麻生消防団のムードメーカー的存在



親の介護や孫との時間で忙しい毎日ですが、消防団での活動は毎回新しい発見の連続です。新しい知識や技術の習得はもちろん、いろいろな人との出会いはとても楽しく、若い世代や同世代の仲間から元気を貰っています。是非多くの方に入団していただき、一緒に活動していければと思っています。

消防団員募集

18歳以上で市内に在住、在勤、在学（機能別）の方でしたら入団資格があります。まずはお気軽に問合せください。



（消防団に関するお問合せ先）
消防局総務部庶務課 消防団・防災支援係
電話：044-223-2514



消防団員による放水訓練



イベントでの広報活動



人材育成（職員教育）

～「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かかわき」の実現に向けて～

消防行政については、多様化・増大化する市民ニーズや社会変容に対応するため、変化に柔軟に対応できる組織力が求められています。川崎市消防局では「職務遂行を通じた人材育成」、「人が育つ職場づくり」、「職域ごとの取組の推進」を人材育成の基本的な考え方として、職場実態に即したきめ細やかな人材育成の取組や専門性の高い職域等における横断的な人材育成の取組を積極的に進めています。



・研修内容の充実

年間研修計画に基づき、階級や立場に見合った研修を行います。また、「消防」という枠組にとらわれることなく、幅広い分野から知識や教養を学びます。



昇任試験合格者を対象に行われる
昇任予定者研修



「航空救助隊員」の資格を持つ職員に行われる
航空救助隊員研修



（株）HUMANROOTS 月々瀬講師を招いて行われた
「パフォーマンス向上」・「心理的安全性」研修

・新規採用職員の育成

消防局の業務には広範かつ専門的なものが多いため、新規採用職員に対して、神奈川県消防学校での初任実務教育の他、消防局や消防署での実務研修など1年間の研修・教育を行います。



初任実務教育
（神奈川県消防学校）



消防局実務研修
（消防局）



警防実務研修
（消防訓練センター）

新規採用後（1年目）の流れ【例】

4月～	9月	消防学校初任実務教育 （神奈川県消防学校）
10月		各消防署実務教育
11月～	12月	救急科
1月		消防局実務研修
2月		各消防署実務研修
3月		警防実務研修
		（川崎市消防訓練センター）

・年齢や性別に関係なく、職員の「やる気」と「能力」をあげるための制度

昇任試験（選考）制度

川崎市消防局では、階級をあげるために試験制度を導入しています。ある一定の年数を経過すれば、年齢や性別に関係なく、自分の意思で試験を受けることができます。

自己申告制度

定規人事異動の際に、職員の希望を申告できる制度です。適材適所の人事配置に職員本人の意向を反映する貴重な機会として、積極的に活用されています。

人事評価制度

一人ひとりの能力や実績を適正に評価して、職員のやる気や働きがいを引き出す制度を導入しています。

WORK LIFE BALLANCE

ワーク・ライフ・バランスとは「仕事と生活（プライベート）の調和」。
仕事とプライベートのそれぞれが充実することで職員一人ひとりが力を発揮し、
多様な人材が活躍できる職場を目指しています。

・ワークスタイル変革に向けた取組

業務の効率化や、多様で柔軟な働き方の実現を目指して、オンライン会議の活用やテレワーク環境の整備に取り組んでいます。会議や研修に伴う移動時間がなくなること、時間外勤務の削減につながり、空いた時間で自己研鑽に励むなどプライベートの充実につながります。



オンライン会議の様子

・日動救急隊員制度（令和2年4月～）

家庭の状況や環境により、当直勤務ができない職員でも自分の能力や技術を活かすことができるように日動救急隊員の運用を開始しました。

・救急救命士リスタートプログラム（令和4年2月～）

救急救命士等がその資格を有効活用できるように、長期間救急業務から離れている救急救命士等の復帰を目的とするプログラムです。女性職員のみならず男性職員も人材活用を推進します。



桑原消防士

「後輩職員のために良い環境を」



出産前は隔日勤務で救急隊として勤務していましたが、育児休業復帰後は毎日の保育園の送迎や家事育児の事を考え、救急隊として勤務することを諦めていました。しかし、日動救急隊員制度を利用することにより、部分休業を取得しながら救急の現場で活動することができています。まだ新しい制度なので、試行錯誤しながらも後輩職員へ良い環境を作りあげていきたいです。

・職員の福利厚生事業について

すべての職員が「安心して、豊かな、うるおいのある生活を送るために」を目標として、職員の福利厚生充実のために、各種事業が用意されています。

【職員が利用できる主なサービス】
映画鑑賞券割引、飲食チェーン店割引、日帰りレジャー補助、宿泊施設・旅行割引、生活電話相談、住宅サービス割引 など



国内に数か所ある宿泊施設は大人気！

・職員文化会の部活動

職員の教養・体力向上を目的として、さまざまな部活動が活動しています。「職場に入って初めてやってみた」という職員も多く、自分発見、仲間づくり、趣味づくりとその理由も様々。日々のストレス発散にも最適です。



INTERVIEW 01



「救助隊という仕事に誇り」

私たちは、市民の皆様の安心と安全を守るため人命救助に対する知識や技術を日々研さんしています。救助隊が活動する現場は1つとして同じものではなく、時には人命を左右する判断をしなければなりません。極めて困難な状況下でもチーム一丸となって最前線で活動する救助隊という「仕事」に誇りを感じています。また、日頃の訓練で培ったことが災害現場で活かされた時には、特に大きな充実感を感じます。信頼できるたくさんの仲間と仕事ができることを楽しみにしています。

氏 名 : 船山 光一郎
所 属 : 臨港消防署警防課 特別高度救助隊
入 庁 : 平成24年
主 な 資 格 : 大型自動車免許、玉掛技能者
大型特殊自動車運転免許、潜水士など



資格を活かしてはしご車の運転や操作も行う

環境にもやさしい職場作りを目指しています

災害現場で役目を終えた防火衣やホースなどの消防装備品をアップサイクル（活用）してゴミを削減し、脱炭素化とSDGsの達成へつなげていきます。



現場での役目を終えた
防火衣・ヘルメット・ホース



防火衣はエプロンへ
ホースは鉢カバーへ



ヘルメットは
ハンギングバスケットへ



消防局1階広報コーナー
(令和6年1月～3月まで)

INTERVIEW 02



氏 名 : 福田 遥
所 属 : 麻生消防署予防課庶務係
入 庁 : 平成28年

「組織に貢献できる職員へ」

消防という世界に入ってから、大学で取得した救急救命士の資格を活かし救急隊として現場で活動していました。現場での活動は充実していましたが、自身の出産を機に毎日勤務を経験し現在は消防署で庶務係の仕事に従事しています。川崎市消防局では、自分の希望や家庭環境等に合わせて様々な仕事を幅広く経験することができます。様々な業務を経験し知識を深め、より組織に貢献できる職員になれるよう日々仕事に取り組んでいます。

INTERVIEW 03

「一人でも多くの命を救うために」

消防学校を卒業してからは救急隊として現場で活動しています。現場での経験は浅く、まだまだ勉強は必要ですが、私はこの救急救命士という仕事にやりがいと使命感を感じています。活動中は市民の皆様に寄り添った活動をするを常に心がけており、一人でも多くの命を救いたいという気持ちで活動しています。今はまだ、隊員として隊長の指示を受けることが多いのですが、将来的には救急隊長として活躍できるように、これからも上司や同僚からの指導に耳を傾け、知識や経験を増やしながら成長していきたいと思っています。



氏 名 : 佐藤 秀斗
所 属 : 高津消防署警防課 救急隊
入 庁 : 令和2年

INTERVIEW 04

「憧れの職業」



氏 名 : 松井 結衣
所 属 : 川崎消防署警防課 消防隊
入 庁 : 令和4年

消防署の近くで生まれ育った私は、幼少期から訓練で汗を流している消防士の姿を目の当たりにして憧れを抱き、将来の進路を考えたときにこの仕事しかないと思いました。最初は、過酷な現場活動に耐えられるか不安でしたが、みんなと一緒に消防訓練や体力錬成に取り組み、汗を流しながら少しずつ自信をつけています。とても緊張感のある仕事ですが、努力している姿は必ず誰かが見ていて認めてくれる、やりがいのある仕事です。

消 防 車 両

川崎市には、地域特性に応じたポンプ車、化学車、はしご車、救助工作車、救急車等の車両を市内消防署に配置し、併せて、最新の資機材を配備し、災害に備えています。



ポンプ車 41台



救急車 38台



水槽付ポンプ車 11台



救助工作車 9台



はしご車 8台



化学車 7台



特殊災害対応自動車 2台



水災害対応自動車 2台



電源車 1台



特別高度工作車 1台



高発泡自動車 1台



支援車 1台

その他の消防車両等 76台



そよかぜ1



そよかぜ2

(消防ヘリコプター 2機)



震災工作車(中原署) 1台



大型化学高所放水車(臨港署) 1台



大型消防艇(かわさき)

(消防艇 2艇)



小型消防艇(うみかぜ)

施設・設備



川崎市消防訓練センターは、消防職員及び消防団員の実践に即した訓練が行え、さらに、市民の皆様への防火・防災教育の場として運用しています。



泡放射訓練



消火訓練



指揮・作戦室

▶ 緊急消防援助隊活動拠点として
大規模災害時に他都道府県から応援に来る緊急消防援助隊が消防活動を行う拠点となります。また、川崎市消防局を含む県内消防本部が他県に応援に行く際などの進出拠点にもなっています。



令和6年能登半島地震に対し消防訓練センターを拠点として36日間で合計256人の職員を現地へ派遣しました。

▶ 消防庁舎

消防力の総合的な強化に向けて、老朽化した消防庁舎を順次改築し、庁舎の防災拠点機能を強化しています。改築した庁舎については、女性職員が宿泊勤務できるように設備を整えたほか、感染症対策も含め各職員のプライバシーに配慮した作りになっています。



臨港消防署
(庁舎の大きさも車両台数も市内最大)



宮前消防署宮崎出張所 (令和6年6月改築)



消防指令センター
(消防局)

年間約12万件的119番等緊急通報を受信する消防指令センターでは、最新のICT技術を用いた消防指令システムを整備し、市内の災害情報を集中管理して、部隊が効率的に活動できるようにしています。また、聴覚や発話などに障害をお持ちの方への対応として、「Net119緊急通報システム」「FAX119番」の受信も24時間体制で行っています。



消防指令センターの情報は、消防車や救急車に搭載されている車載指令端末装置(写真左)と消防局作戦室(写真右)でも確認できます。



災害発生状況

市内で発生している災害をインターネットで案内しています。



<https://sc.city.kawasaki.jp/saigai/index.html>

Net119緊急通報システム



聴覚や発話の障害により、音声での緊急通報が不安な方が、携帯電話やスマートフォンを使って素早く119番通報ができるサービスです。
※ご利用には登録が必要です。

<https://www.city.kawasaki.jp/840/page/00000123447.html>

FAX119番

119番にFAX送信することで、消防車・救急車を要請することができます。ホームページから緊急通報書がダウンロードできます。

<https://www.city.kawasaki.jp/840/page/0000020164.html>



警防業務（部隊）

川崎市消防局で現場活動に従事している主な部隊は次のとおりです。

消防隊



火災現場で水を出して消火にあたるほか、はしご車や化学車など大型の車両を操作して消火する、消火のプロフェッショナルです。救急現場に出場し、救急隊と協力して活動を行うこともあります。



特別救助隊（配置署：川崎署・幸署・中原署・高津署・多摩署・麻生署）



火災、交通事故、機械事故などから専門的な知識と技術、救助資機材を活用して人命を救う、人命救助のプロフェッショナルです。特別救助隊員になるためには、知識・体力に優れ、約1か月にわたる養成研修に参加し最終試験に合格しなければなりません。



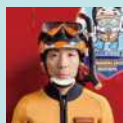
特別高度救助隊（配置署：臨港署・宮前署）



特別救助隊員の中でも、特に専門的かつ高度な知識と技術を有する隊員と高度救助資機材の装備で編成され、人命救助をはじめ、放射性物質、化学剤などの漏えいや飛散、流出などの特殊な災害に対応します。



水難救助隊（配置署：臨港署・幸署・高津署）



河川や海での事故、豪雨などの水災害に、消防艇や水災害対応車と連携して活動します。優れた泳力、潜水技術に加え、水中でも冷静な判断力を持つ隊員で構成されています。



IRT（国際消防救助隊）



IRT（国際消防救助隊）とは、海外で大規模災害が発生した際に日本の救助チームの一員として被災地へ派遣され救助活動を行う部隊です。各消防本部から選抜された隊員で編成されており、現在、川崎市では11名の隊員が登録されています。

川崎市消防局隊員の派遣実績

- ①平成 3年5月 バングラデシュ人民共和国サイクロン災害
- ②平成11年8月 トルコ共和国地震災害
- ③平成20年5月 中国四川省地震災害



航空隊



東京都江東区新木場にある東京ヘリポートに、2機のヘリコプターと操縦士、整備士、救助隊員を配置し、高い機動力を活かして、迅速に市内全域の災害に対応します。



救急隊



川崎市では、約9万件の救急需要に対応するため、救急救命士の常時乗車体制を確保するとともに、より高度な処置ができる認定救命士や、救急救命士の指導を担う指導救命士の養成を行っています。また、人口動態を踏まえ、救急隊を適正に配置するなど積極的に救命効果の向上に取り組んでいます。



救急救命士章
（ワッペン）



認定救命士養成研修



車内での救急活動（イメージ）

応急手当の普及啓発事業や救急車の適時・適切な利用（適正利用）の推進にも取り組んでいます。

応急手当普及事業 ～あなたも市民救命士～

いざという時のために、心肺蘇生やAEDの使用手順、止血法など応急手当の技術を身につけた「市民救命士」の養成を積極的に行っています。



川崎市救急受診ガイド

急な病気やけがをした際、「病院を受診した方がいい？」「救急車を呼んだ方がいい？」と迷った時に、判断の目安に御活用ください。

インターネットは

川崎市救急受診ガイド

で検索



※川崎市のホームページに移動します。

救急医療情報センター 電話 044-739-1919

緊急性のない場合は、こちらで医療機関を御案内しています。
（365日24時間対応）
※医療相談及び歯科の御案内は行っておりません。



予 防 業 務

予 防 課

(火災予防に関すること)

火災を未然に防ぐためには、一人ひとりが火災予防を心がけることが大切です。放火されない環境づくりによる放火防止対策や、住宅用火災警報器の設置・維持管理等による住宅防火対策を推進するために、私たちは積極的な火災予防広報に取り組み、火災のない、安心して暮らせる街を目指しています。



消防フェアでの火災予防広報



高齢者への火災予防広報



川崎市消防音楽隊と連携した火災予防広報



届出のあった図面で消防用設備等の事前確認

(消防用設備等に関すること)

商業施設や学校などが建設される際には、消火器や自動火災報知設備などの消防用設備等が適正に設置されるように、あらかじめ図面などで審査し、設置の状況を検査で確認します。

(火災調査に関すること)

大切な命と財産を一瞬にして奪う火災。その発生した原因を究明し、二度と火災が起こらないよう火災予防に役立てます。川崎市では、消防局の予防課に火災調査専門の調査係、各消防署に指定調査員や調査係員を配置し、火災発生原因や損害等について詳細に調査を行います。消防局には火災の発生原因を詳細に究明するための研究開発室も備えています。



職員による消火後の火災原因調査



製造メーカーと出火原因を調査

※研究開発室
高度な研究設備が整っており、燃焼実験や火災で燃えた物質の特定を行い、あらゆる角度から火災発生の原因究明を行い、火災予防へ役立てています。



※研究開発室での火災調査

近年、火災原因は複雑多様化しており、究明には高度な科学技術を利用した鑑定が必要となってきました。川崎市消防局では鑑定機材が充実しているため、あらゆる角度から火災原因を究明し、火災のない街づくりを目指しています。

査 察 課

商業施設、店舗、工場、福祉施設、学校施設など、多数の方が出入りする建物・施設を中心に、消防法に基づき、火災予防に関する事項が適切に守られているか、消防用設備等が適正に維持管理されているかを検査して、火災を予防し、さらに、有事の際には、被害を最小限にとどめることができるよう、関係者の方と共に取り組んでいます。



タブレット端末を使用した立入検査



一斉合同特別立入検査

川崎市では、消防局予防部査察課、各消防署予防課を中心に査察業務に取り組み、警防課員も管内の建物を担当し、査察業務を通じて建物構造、消火設備等の状況についても確認しています。
また、消防局職員だけではなく関係行政機関と協力して合同の特別立入検査を実施する場合もあります。

保 安 課

(危険物に関すること)

川崎市臨海部の石油コンビナートには、石油精製、石油化学、鉄鋼、セメント、化学、電力、ガスなど多様な産業の事業所が立地しており、危険物の漏えい、爆発などの災害が発生すれば、人命に関わると共に、わが国の社会・経済にも甚大な影響を及ぼします。そのため、特定事業者、関係行政機関と共に、日々コンビナート地域の安全対策に取り組んでいます。



石油コンビナート火災



危険物施設の立入検査



タンクローリー検査

(火薬類・高圧ガスに関すること)



高圧ガス設備の立入検査

花火などの火薬類やプロパンガスなどの高圧ガスは、その管理や取り扱いを誤ると爆発や火災等のおそれがあります。そうした災害を未然に防止し、公共の安全を確保するため、花火大会や高圧ガス製造施設等の規制や立入検査により、自主保安体制の確立を図っています。

check!

川崎生まれの「消防技術説明者」制度



「消防技術説明者」ヘルメット

石油コンビナート地区の大規模化学工場等では、多種多様な危険物質を製造、貯蔵、取り扱っていることから、災害発生時に消防隊に災害の状況、危険性をわかりやすく説明することのできる従業員を「消防技術説明者」として選任しています。

晃洋商事株式会社

消防用品で安全の手助けをします

詳しくは
こちらから

<http://koyoshoji.com>

〒210-0851
川崎市川崎区浜町4-15-9
TEL:044-333-3063
FAX:044-366-4798

信頼の赤線2本入り

東京製綱繊維ロープが長年にわたるロープづくりのなかで、大切にしてきたのは先取の精神。今を豊かにし、そして次代を支える製品づくりです。長年の培ってきた技術による「信頼の赤線2本入り」のナイロンレンジャーロープでこれからも消防救助に際する「安心と安全」を提供し続けていきます。

東京製綱
東京製綱繊維ロープ株式会社
東京都千代田区本町1-17-7
TEL:03-5238-0330

FUKADA

人命と財産を守る
安全環境の創造

●事業案内
総合防災エンジニアリング
(LNG・LPG基地、石油タンク、化学プラント、発電所、塗装ブース)
防火設備、火災監視設備、消防車・消防艇搭載機器、消防火災制

●お問い合わせ・ご用命 www.fukada-kogyo.co.jp

深田キデイ株式会社
〒108-0073 東京都港区三田3丁目1番5号 (第一京半利川ビル)
TEL: (03)3451-5451(代) FAX: (03)3451-5444

深田工業株式会社(東京支社)
〒108-0073 東京都港区三田3丁目1番5号
TEL: (03)3452-2301(代) FAX: (03)3453-9215

KOBAYASHI
FIRE PROTECTIVES CO., LTD.

小林防火服

小林防火服株式会社
〒108-0073 東京都港区三田3丁目1番5号
TEL: 03-3451-5451
FAX: 03-3451-5444

シメダカ

創業1917年

活動しやすい構造
身体の前部に負担がなく、火災や急時といった緊急での活動性が向上しました。

広視野
RX前後と防火服FH-01Eを組合せて使用することで、広い視野を確保します。

RX前後と防火服FH-01Eを組合せて使用することで、広い視野を確保します。

X Alert
専用電が着替えた場合に周囲にLEDと音で知らせる警報装置です。

ライフゼム X-1
SELF-CONTAINED BREATHING APPARATUS

重松製作所
SHIMOMATSU WORKS CO., LTD.
www.shi-japan.com

NEC Orchestrating a brighter world.

明日もあなたに会える未来の仕組みづくり

NECの消防DX

私たちが、命を助ける「1秒」を創るために、消防のデジタル技術を革新し続けます。

DX FUTURE

SAKURA

夜でも目立つ
びっくライン
夜にも強い
サクラのホース

櫻阪株式会社
〒101-8507 東京都中央区新富1-46-3 新富ビル6F
TEL: 03-2465-2171 FAX: 03-2465-1610

医療品は、医師・看護師・救急救急士など
すべての医療に携わる方々を支える。
医薬品・医療機器を通じて社会貢献を目指しています。

英薬品産業株式会社
〒210-0001 川崎市川崎区本町1丁目5番地15
TEL: 044(233)3160 FAX: 044(233)4390
E-mail: info@aoiyakuhin.co.jp



川崎市消防局イメージキャラクター「太助」

臨港消防署	〒210-0832	川崎区池上新町3-1-5	電話044-299-0119
川崎消防署	〒210-8565	川崎区南町20-7	電話044-223-0119
幸 消防署	〒212-0005	幸区戸手2-12-1	電話044-511-0119
中原消防署	〒211-0004	中原区新丸子東3-1175-1	電話044-411-0119
高津消防署	〒213-0002	高津区二子5-14-5	電話044-811-0119
宮前消防署	〒216-0006	宮前区宮前平2-20-4	電話044-852-0119
多摩消防署	〒214-0032	多摩区枳形2-6-1	電話044-933-0119
麻生消防署	〒215-0004	麻生区万福寺1-5-4	電話044-951-0119

川 崎 市 消 防 局

〒210-8565 川崎市川崎区南町20-7

電 話044-223-1199

FAX044-223-2520

E-mail 84syomu@city.kawasaki.jp

川崎市消防局公式 SNS では
消防局の最新情報を随時更新中！

X (エックス)



@kawasakicity_fd

Instagram
(インスタグラム)



@KAWASAKICITY_FD